整理番号　16-05

# 平成２８年度　プロジェクト研究費研究実績報告書

平成 29 年 5 月 8 日
代表者　石田　有理

| | |
|---|---|
| 研究課題名 | 幼児期後期における家庭教育のあり方 |
| 研究期間 | 平成２８年４月１日～平成２９年３月３１日 |
| 共同研究者 | 大宮　明子 |

## １．今年度の研究概要

現在、幼児を取り巻く環境は、核家族化、家庭以外の保育や教育の場の増加、子ども向け電子メディアの普及などにより急激に変化しているといえる。家庭での親の養育態度や子どもとのコミュニケーションに関する研究はこれまで、子どもが多くの時間を家庭で過ごす乳児期から幼児期前期を対象としたものが主だった。しかし、ほとんどの子どもが幼稚園や保育園に通う時期である幼児期後期においても、親子の関わりは特に家庭教育という役割から重要だと考えられる。また、近年、特に家庭以外の保育・教育の場の需要が高まっているのと同時に、家庭教育力の低下による家庭教育そのものに対する支援が必要になっており、文部科学省による家庭教育支援の検討もなされている。そこで、保育の現場と家庭との連携や、子どもや親が地域とかかわりをもちながら発達していくという視点に立った家庭教育のあり方への提言が社会的にも求められているといえる。しかし、幼児期後期において、家庭での親子の関わりを通した学びがどのように子どもの発達に影響を与えるのか、また、幼稚園など公教育の場での学びとどのように関連するのか、についてははっきりとした知見は得られていない。

そこで、本研究では、幼児期後期における家庭での親子の関わりの実態を把握し、幼稚園や保育園との連携が家庭教育に与える影響について検討することを目的とした。具体的には、研究代表者と共同研究者が以前から行っている幼児によるデジタルデバイス活用の研究をもとに、タブレット型端末を利用する際の親子のやり取りを観察し、親子のコミュニケーションという点から分析を行った。また、H27 年度に行った保護者に対して行った家庭教育に関する調査をもとに、保育者を対象とした調査を行った。子どもに就学前に身につけてほしいことと、そのために保育の中で取り組んでいることについて尋ねた。

## ２．研究の成果

H27 年度に附属幼稚園の保護者に協力を依頼し、タブレット型端末でアプリケーションを親子で活用する様子を観察した結果を、親子のコミュニケーションという点から分析した。結果として、子どもが年少児の場合、母親主導の取り組みが多く、母親の働きかけも多いのに対して、子どもが年長児の場合、子ども主導の取り組みが多く、母親は子どもに求められた時に働きかけることが多いことが示された。また、年少児はアプリケーションの機能への言及や、機能そのものを楽しむ取り組みが多くみられ、アプリケーションならではの機能があることに影響をうけやすく、親の働きかけによって子どもの活用が大きく異なってくる可能性が考えられた。親のアンケートにおいても、「会話が減る」という意見と「会話が増える」という意見が両方あったり、「親の関わり方次第では会話が減ると感じる」という意見もあったことから、親自身も親の関わり方の重要性を意識していることがうかがえた。（学会発表ポスター添付）

H27 年度に行った保護者に対して行った家庭教育に関する調査の結果、読み書きや数的な処理などの認知的な側面を育てるために家庭で意識的な対応を行っていたのに対して、意欲や態度などの非認知能力については家庭では意識的な対応があまり行われていないことが示された。この結果をふまえて、神奈川県内の保育園に勤務する保育者を対象として、意欲や集中力、我慢強さなどの非認知能力のうち、子どもに就学前に身につけてほしいことと、そのために保育の中で取り組んでいることについて調査を

行った。その結果、「自分の気持ちをことばで伝える」「自分が悪いときは謝罪できる」「人の話をじっくり聞く」「身の周りの整理ができる」等の項目に関して、就学前に身につけておく必要があると考える保育者が多かった。また、そのために保育の中で取り組んでいることがあると答える割合も多かった。一方で、「自分なりの方法で確かめる」「いろいろな友達と仲良く遊べる」「自己主張できる」「自分で考えて行動できる」等の項目については、必ずしも必要でないと考える保育者が一定数いた。今後は、保育者が保育の中で行っている取り組みについてさらに分析を行い、今年度の日本教育心理学会で結果を発表する予定である。

今年度は、親子のコミュニケーションと保育者の意識や取り組みに関しては検討を行うことができたが、連携のあり方や、保育者が親にどのように保育の中での取り組みや家庭での取り組みについて伝えているかまでは検討できなかった。今後は、非認知能力を育成するために家庭と保育現場でどのような対応や連携が取られているのか、それが子どもの発達とどのように関連するかについてさらに検討していく予定である。

３．研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

平成 28 年 4 月　第 27 回　日本発達心理学会にてポスター発表
大宮明子・石田有理「幼児期後期における家庭教育に対する保護者の意識」

平成 29 年 3 月　十文字学園女子大学紀要に研究ノート掲載
石田有理・大宮明子「デジタル機器における乳幼児向けアプリケーションへの女子大学生の評価に関する研究」

平成 29 年 3 月　第 28 回日本発達心理学会にてポスター発表
石田有理・大宮明子「幼児のタブレット型端末使用と親との相互作用の検討」

平成 29 年 10 月　第 59 回日本教育心理学会にてポスター発表予定

平成 29 年 11 月 21 日

平成 28 年度(2016 年) 研究概要

| | |
|---|---|
| 研究所・部門 | |
| 研究課題名 | 幼児期後期における家庭教育のあり方 |
| 研究代表者 | 石田 有理 |
| 研究期間 | 平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日 |
| 共同研究者 | 大宮 明子 |

1.研究成果取組状況

(1)国内外の学会発表

| 状況 | 発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所 | 招待講演 |
|---|---|---|
| 発表済 | 大宮明子・石田有理「幼児期後期における家庭教育に対する保護者の意識」第 27 回日本発達心理学会ポスター発表 H28.4.<br>石田有理・大宮明子「幼児のタブレット型端末使用と親との相互作用の検討」第 28 回日本発達心理学会ポスター発表 H29.3. | |
| 発表予定 | 第 59 回日本教育心理学会にてポスター発表予定 | |

(2)雑誌論文(学内紀要含む)

| 状況 | 発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所 | 査読有無 |
|---|---|---|
| 投稿済 | 石田有理・大宮明子「デジタル機器における乳幼児向けアプリケーションへの女子大学生の評価に関する研究」十文字学園女子大学紀要第 47 号 H29.3. | 有 |
| 投稿中<br>投稿予定 | | |

(3)図書等の出版

| 状況 | 発表者，発表課題，学会誌名，発表年月日，発表場所 |
|---|---|
| 出版済 | |
| 出版予定 | |

(4)シンポジウム・講演会等の開催

| 状況 | 主催者名・協賛社名等，講演（発表タイトル），実施年月日，実施場所 |
|---|---|
| 開催済 | |
| 開催予定 | |

(5)本研究に関連して本学経費以外に支援を得た補助金など

| 年度 | 機関・財団名，事業名，課題名 |
|---|---|
| | |
| | |